Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 21第1号
2021年（令和三年） 4月2日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

3/18～3/31のNYMEX・WTI先物市場は、57.76～61.55ドルの範囲で推移した。

3月25日は、新型コロナ感染再拡大による欧州経済の停滞懸念から、大幅反落した。スエズ運河でのコンテナ船座礁の影響は、スエズ運河をバイパスするスメドパイプライン（原油）があることから、中東から欧州向けの石油製品が中心と見られる。5月限の終値は前日比2.62ドル安の58.56ドル。

週末26日は、スエズ運河の航行停止が長期化するとの観測で、大幅反発した。また、今週は、コロナの感染再拡大で売られすぎたとの見方もあった。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比6基増の324基となっている。5月限の終値は前日比2.41ドル高の60.97ドル。

週明け29日は、4月1日開催予定のOPECプラス閣僚監視委員会（MMC）を前に、現行減産体制が維持されるとの観測が高まり、また、スエズ運河では座礁船の離礁成功で通航再開の発表があり欧州向けの供給懸念が解消され、続伸した。5月限の終値は0.59ドル高の61.56ドル。

30日は、OPECプラスMMCを前に、ポジション調整の売り、ドル高に伴う原油先物の割高感で、仏・独における感染再拡大による都市封鎖の動き、欧州のワクチン接種の遅れなど、欧州の経済回復への懸念から、3営業日ぶりに反落した。5月限の終値は前日比1.01ドル安の60.55ドル。

31日のNYMEXのWTI先物原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油在庫もガソリン在庫も取り崩しとなり、一時買いが入ったものの、OPECプラスの合同専門委員会が、新型コロナの感染再拡大を理由に、今年度の世界石油需要予測を下方修正したことで、売りが優勢となり、続落した。5月限の終値は前日比1.39ドル安の59.16ドル。

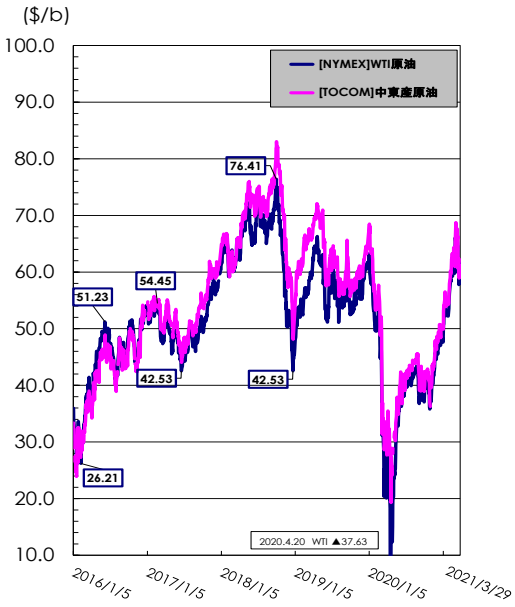
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）は3月18日～24日の間60.30～65.80ドルの範囲で推移した。3月25日62.10ドル、26日61.90ドル、29日62.30ドル、30日63.80ドル、31日63.60ドルと推移した。

為替は3月18日～24日の間108.64～109.10円の範囲で推移した。3月25日108.88円、26日109.31円、29日109.63円、30日109.86円、31日110.71円で推移した。

財務省が3月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、39,623円/klで、前旬比2,344円高、ドル建て59.60ドルで前旬比3.17ドル高、為替レートは1ドル/105.70円。

そのような中で、3月29日時点の小売価格は、ガソリンが前週（3月22日）比0.6円の値上がり、軽油も同0.6円の値上がり、灯油は8円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは18週連続の値上がり、軽油も18週連続の値上がり、灯油も18週連続の値上がりだった。この週（3月第5週）の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.0～1.5円の値下げとなった。

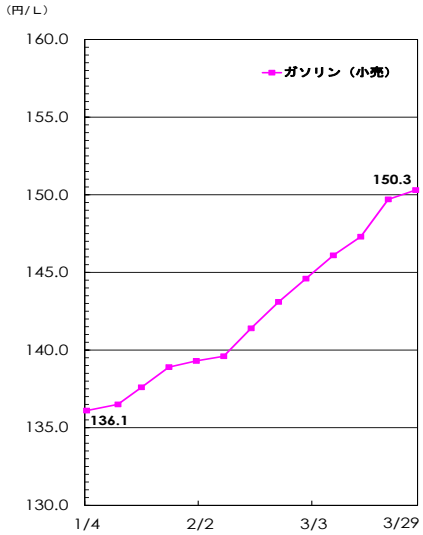
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/21 ～ 3/27	2,807	▲ 9	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	72.9	▲ 0.2	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	3/27	10,286	▲ 4	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/29	61.08	▼ -1.33	▲ 31.8
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/29	61.56	▲ 0.01	▲ 41.5
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	3月上旬	59.60	▲ 3.17	▼ -2.56
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	39,623	▲ 2,344	▼ -2,605
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	105.70	▼ -0.65	▲ 2.30
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/29	110.63	▼ -0.72	▼ -1.95



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/21 ～ 3/27	889	▼ -53	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	839	▲ 58	▲ –
	輸出		〃	141	▲ 50	▲ –
	在庫		3/27	1,805	▼ -91	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/23 ～ 3/29	60.0	▼ -0.5	▲ 21.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/23 ～ 3/29	54.6	▼ -2.6	▲ 23.4
		(TOCOM/中部)	3/29	56.9	▼ -1.9	▲ 24.9
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/29	150.3	▲ 0.6	▲ 14.0

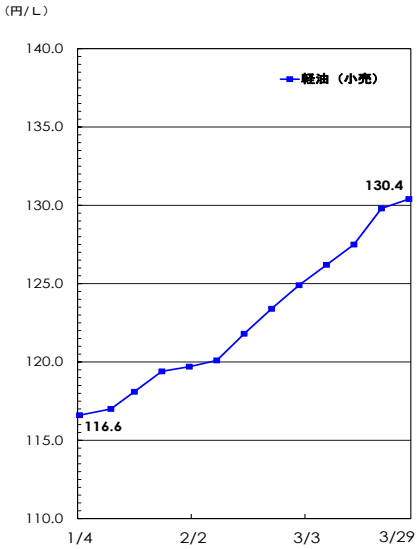
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

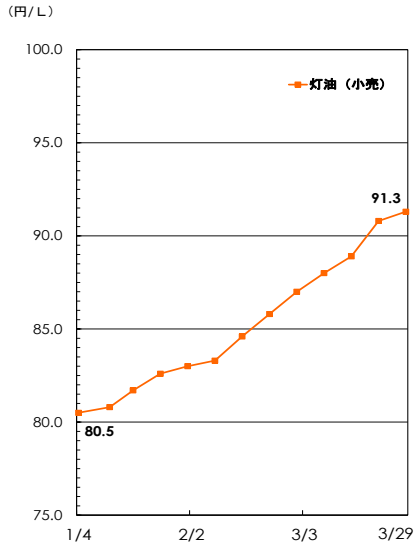
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/21 ～ 3/27	735	▲ 83	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	582	▼ -49	▼ –
	輸出		〃	25	▼ -125	▼ –
	在庫		3/27	1,413	▲ 127	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/23 ～ 3/29	62.3	▼ -0.2	▲ 21.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/23 ～ 3/29	60.0	▼ -1.2	▲ 17.2
		(TOCOM/中部)	3/29	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/29	130.4	▲ 0.6	▲ 12.9

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/21 ～ 3/27	255	▼ -52	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	204	▼ -27	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		3/27	1,521	▲ 51	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/23 ～ 3/29	60.6	▼ -1.3	▲ 20.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/23 ～ 3/29	55.6	▼ -1.8	▲ 20.4
		(TOCOM/中部)	3/29	56.7	▼ -1.8	▲ 18.7
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/29	91.3	▲ 0.5	▲ 6.6



■ 関連情報

1　海外/原油

3月31日のNYMEXのWTI先物原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告によれば、原油在庫は製油所稼働率回復により前週末比90万バレル減と市場予想（同10万バレル増）に反する取り崩し、ガソリン在庫も同170万バレル減と、需要回復期待で、一時買いが入った。しかし、OPECプラスの合同専門委員会が、新型コロナの感染再拡大を理由に、今年度の世界石油需要予測を30万バレル下方修正したことで、売りが優勢となり、続落した。5月限の終値は前日比1.39ドル安の59.16ドル、6月限の終値は同1.38ドル安の59.18ドル。

EIAによると、3月29日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.3セント値下がりの1ガロン2.852ドル（83.2円/㍑）、ディーゼルは同3.3セント値下がりの3.161ドル（92.3円/㍑）となった。ガソリンは18週ぶりの値下がり、ディーゼルは21週ぶりの値下がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年3月21日～3月27日に休止したトッパー能力は61.0万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は280.7万klと、前週に比べ0.9万kl増加。前年に対しては32.5万klの減少。トッパー稼働率は72.9%と前週に対して0.2ポイントの増加、前年に対しては7.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.6%減、ジェット/15.2%減、灯油/16.9%減、軽油/12.7%増、A重油/3.1%減、C重油/2.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.5万kl減）。軽油の輸出は2.5万kl（前週比12.5万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でガソリン、A重油が増加、その他の油種で減少となった。前年比でガソリン、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は83.9万kl（対前週7.4%増）と3週振りで増加した。ジェット6.2万kl（対前週31.2%減）、灯油20.4万kl（対前週11.8%減）、軽油58.2万kl（対前週7.8%減）、A重油22.2万kl（対前週8.0%増）、C重油15.8万kl（対前週18.0%減）。

（単位：千KL）

	今週 (3/21 ~ 3/27)	前週 (3/14 ~ 3/20)	前週比	
ガソリン	839	781	▲ 58	(7%)
ジェット燃料	62	90	▼ -28	(-31%)
灯油	204	231	▼ -27	(-12%)
軽油	582	631	▼ -49	(-8%)
A重油	222	206	▲ 16	(8%)
C重油	158	192	▼ -34	(-18%)
合　計	2,067	2,131	▼ -64	(-3%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月27日時点の在庫は、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは180.5万kl、前週差9.1万kl減。前年に対しては3.1万kl多い。

灯油は152.1万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては10.0万kl多い。

軽油は141.3万kl、前週差12.7万kl増。前年に対しては1.3万kl多い。

A重油は69.8万kl、前週差0.0万kl減。前年に対しては1.9万kl少ない。

C重油は178.7万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては8.6万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (3/27)	前週 (3/20)	前週比	
ガソリン	1,805	1,896	▼ -91	(-5%)
ジェット燃料	762	779	▼ -17	(-2%)
灯油	1,521	1,470	▲ 51	(3%)
軽油	1,413	1,286	▲ 127	(10%)
A重油	698	698	➡ 0	(0%)
C重油	1,787	1,791	▼ -4	(-0%)
合　計	7,986	7,920	▲ 66	(0.8%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月23日～29日の指標原油価格は前週（3月16日～22日）比で大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比1.0～1.5円の値下げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

3月23日～3月29日の製品スポット市況は、3月16日～22日平均と比べ、全油種・全取引とも値下がりした。

直近（3/23～3/29）の陸上スポット価格平均値（千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格）は、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油も1.3円の値下がり、軽油も0.2円の値下がりだった。直近週（3/23～3/29）において、ガソリンは113～114円台で値下がり後回復、灯油は60～61円台で値下がり後横ばい、軽油は62円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（3/23～3/29）に、前週比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は1.7円の値下がり、軽油は0.8円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間（3/23～3/29）に、ガソリンは114～115円台で値下がり後わずかに値上がり、灯油は56～58円台で値下がり、軽油は63～64円台値下がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.6円の値下がり、灯油は1.8円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。先物価格は、同期間（3/23～3/29）に、ガソリン107～109円台で大きく値下がり後値上がり、灯油54～56円台で値下がり後大きく値上がり、軽油58～61円台で値下がり後大きく値上がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/23 ~ 3/29)	前週　(3/16 ~ 3/22)	前週比
スポット価格	レギュラー	60.0	60.5	▼ -0.5
	灯油	60.6	61.9	▼ -1.3
	軽油	62.3	62.5	▼ -0.2

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(3/23 ~ 3/29)	前週　(3/16 ~ 3/22)	前週比
先物価格	レギュラー	54.6	57.2	▼ -2.6
	灯油	55.6	57.4	▼ -1.8
	軽油	60.0	61.2	▼ -1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/23～3/29実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	▼ -2.6	▼ -1.6
灯油	▼ -1.3	▼ -1.8	▼ -1.6
軽油	▼ -0.2	▼ -1.2	▼ -0.7
A重油	▼ -0.6		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（3月22日）比0.6円高の150.3円、軽油も同0.6円高の130.4円、灯油は18㍑ベースで同8円高の1,643円（1㍑ベースでは同0.5円高の91.3円）。ガソリンは18週連続の値上がり、軽油も18週連続の値上がり、灯油も18週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは43都道府県、横ばいは1県、値下がりは3県だった。全国最安値は143.9円の徳島県（前週比0.4円高）、その次に安かったのは146.1円の埼玉県（同1.6円高）と宮城県（同0．7円高）、最高値は158.2円の鹿児島県（同0.6円高）だった。最も値上がりしたのは同2.4円高の高知県（155.4円）で、横ばいは鳥取県（150.9円）、最も値下がりしたのは同0.5円安の群馬県（151.4円）だった。

今週（3月23日～29日）は、指標原油価格が大きく値下がりし、為替レートはは横ばいであったが、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。次週（4月1日～7日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.0～1.5円の値下げとなった。次回調査時（4月5日）のガソリンの小売価格は小幅な値下がりが予想される。

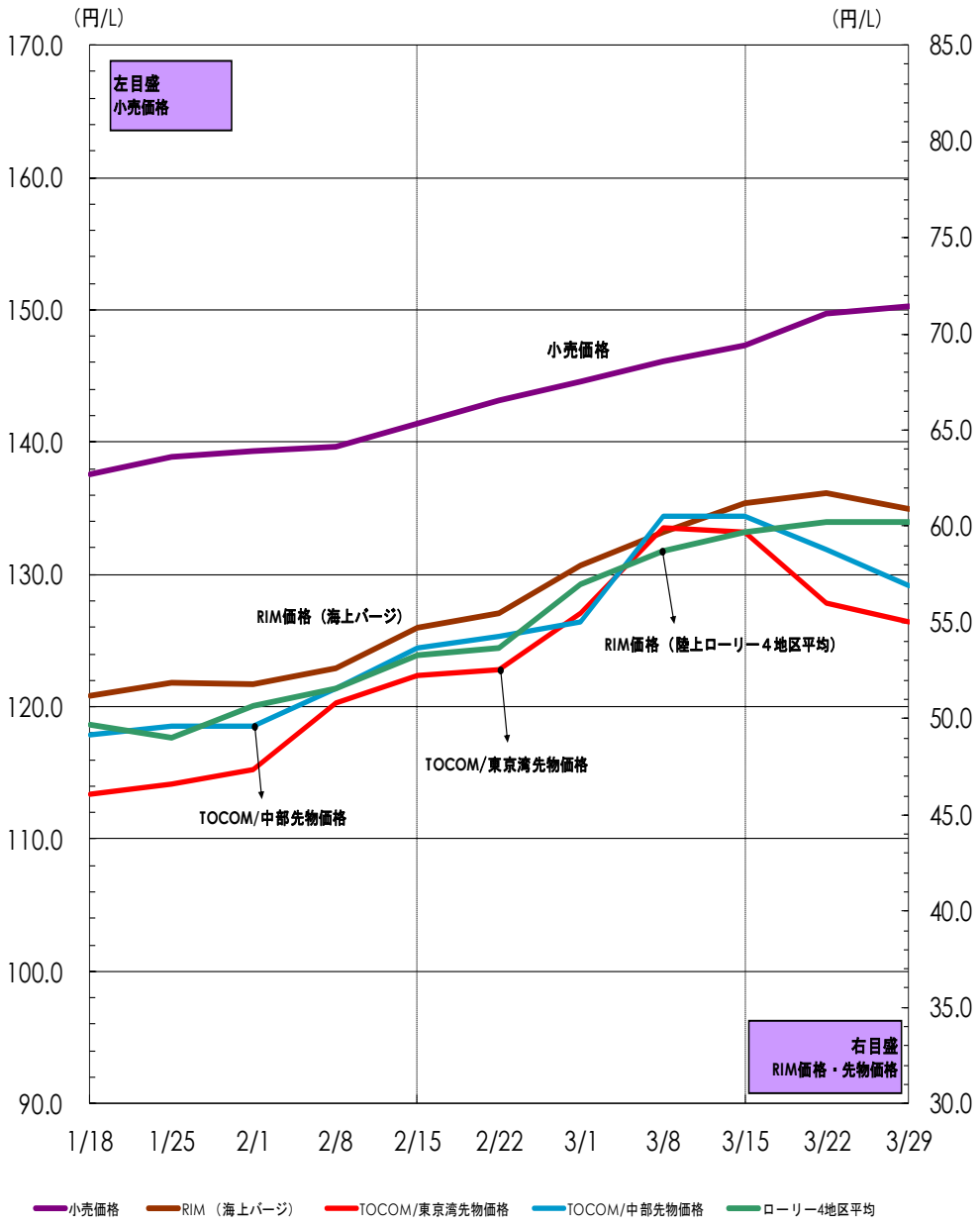
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/29)	前週　(3/22)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	150.3	149.7	▲ 0.6	08/8/4	185.1
	灯油	91.3	90.8	▲ 0.5	08/8/11	132.1
	軽油	130.4	129.8	▲ 0.6	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/1/18　～　2021/3/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2021第2号）の公表は、4/9（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和2年3月末現在）は、8月26日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。